

岡山民俗学会名誉理事長の立石憲利さんが絵本「ももたろう」を出版しました。記事を読み質問に答えましょう。



桃太郎 姫と結婚、殿様に

岡山民俗学会名誉理事長の立石憲利さん(84)「総社市井尻野」が、岡山県吉備中央町の古老から聞き取った昔話を基にした絵本「ももたろう」(同町教育委員会刊)を出版した。鬼を改心させた功績でお姫様と結婚、後に殿様になる物語。長年、民話に携わる立石さんが「初めて聞いた」と驚く珍しい展開だ。(則武由)

岡山民俗学会名誉理事長 立石さん絵本出版

立石さんは2014〜16年、同町のお年寄りから多数の民話を採録した。その中で一般に知られる内容と大きく異なっていたのが、片山光男さん(1921〜2018年)が語る桃太郎だった。

力自慢の若者に成長した桃太郎は、木を担いで川に橋を架けたり田んぼの大岩を片付けたりして人々を助けていた。村を荒らす鬼を懲らしめるため、犬、猿、キジと共に鬼ヶ島へ行き、あつという間に退治。家来にした鬼たちと島を陸まで押して入り江を作り、鬼は漁師になって働いた。喜んだ殿様は娘とめあわせ、桃太郎が殿様になると国はますます栄えたという。

立石さんが着目するのは結末部分。通常は鬼を倒し、宝物を手に入

吉備中央の「例ない」展開

録「例ない」展開

吉備中央町の古老から採録した「ももたろう」は、吉備中央町版は殿様の娘と結婚する。全国で約700話が採録されている桃太郎の民話の中でも「結婚する話は例がない」と話す。もう一つの特徴は、大木で橋を架けたり、鬼ヶ島を動かして入り江を作ったりと、怪力を世に役立てる点。県内には大きな戸で川の流れを変えて村を洪水から救った真庭市の「大清水」、1日に100枚の田を開墾した美作市の「田淵の久三」ら、村のために働く力持ちの伝承がいくつもあり、「これらの影響を受けているのでは」と推察する。

独自の桃太郎は豊かな文化の証し。立石さんは「絵本を通し、地域に誇りと愛着を持ってほしい」と願う。

絵本「ももたろう」は吉備中央町のむかしばなしシリーズとして「大和神社の爪なし竜」と同時刊行。千円。同町教委事務局とかもがわ図書館、ロマン高原かよつ図書館で販売しているほか、県内の図書館で閲覧できる。

吉備中央町の民話を基にした絵本「ももたろう」を手にする立石さん。力自慢でお姫様と結婚するなど、珍しい展開だ

5日付山陽新聞、社会面

Q1

立石さんが出版した絵本「ももたろう」は岡山県吉備中央町の古老(お年寄り)から聞き取った昔話を基にしています。一般的な「桃太郎」と比べ、どんな点が「珍しい」のでしょうか。第1段落から抜き出しましょう。

Q3

「桃太郎」の民話は全国で約700話採録されています。独自の物語をもつ「桃太郎」には、どのような意味がありますか。第6段落から抜き出しましょう。

Q2

吉備中央町版の「ももたろう」には、Q1以外にも、主役の桃太郎自身に特徴があります。どのような特徴でしょうか。第5段落を読み答えましょう。

過去の問題は
こちらから▶▶

◇「さん太のワークシート」は自由にダウンロードして、学校や家庭での学習に活用してください。